

がんばった きみたちへ

作文やスポーツ大会などで優秀な成績をおさめた小中学生・高校生を紹介します
(敬称略)



つかだ ゆり
塚田 友理
(下館中2年)

▼平成19年度「全日本中学生水の作文コンクール」
茨城県審査・最優秀賞

「田んぼで水はすごく大切な働きをしていることを伝えたくて、作文にしました。最優秀賞に選ばれてびっくりしました。うれしいです」

水よ、美しいままで

「チャボ、チャボ、チャボ。」
今年も、きれいに耕された田んぼに、水が流れ込みました。水はどんどん流れ込み、やがて田んぼは、浅い池のようになりました。水が入った田んぼには、いつの間にか、おたまじゃくしやカエル、タニシなどの生き物たちが集まり、そこは水辺の生き物たちの楽園となります。そして、季節は風薫る初夏を迎えるのでした。

初夏の風景といえば田植えです。水辺の生き物たちの楽園となった田んぼに、大切に育ててきた苗を植えていきます。

私の家でも、それはゴールデンウィークの恒例行事です。毎年、ゴールデンウィークの二、三日をかけて田植えをします。家族全員総出で、協力して行います。

米づくりにおいて、一番大切なのは水です。

田んぼには、四月の末から水が入り始めます。七月ごろ

にいったん水を抜くものの、四月末から九月中旬まで、田んぼに引かれた水は、とても大切な役目をします。

役目の一つは、田んぼの中の温度をほぼ一定に保つことです。田んぼに水があることによって、暖かい昼間は温度が上がり過ぎないようにおさえ、冷える夜間は温度が下がらないようになっています。

もう一つは、田んぼに雑草が生えないようにするためです。田んぼに水があれば、種が飛んできても、草が生えることはありません。つまり、稲は何にも邪魔されずに育つことができるのです。

もし、田んぼに水がなければ、稲はなかなか育たずに、だめになってしまうと思います。米づくりにおいて、水はとても大切な役目を果たしていることが分かります。

もちろん、他の植物も動物も人間も、水なしでは生きていけません。地球上のあらゆる

る生命にとって、水はなくてはならないものです。

しかし、その大切な水が、今、大変なことになっているのです。その筆頭が「水質汚染」です。私たち人間の出す生活排水や工業排水、タンカー事故等による有毒物質の流出などが、川や海を汚しているのです。そのために海のきれいなサンゴが減ってしまったたり、川に魚が住めなくなったりするのです。

汚れてしまった水は、なかなか元に戻りません。私たちはこれ以上、川や海を汚さないために、下水道を整備したり、環境重視の基準やルールを定めたりする具体的な行動が求められているのです。

一方で、水が、私たちに被害をもたらすこともあります。それが洪水や大雨といった天災です。洪水や大雨は、とても恐ろしいものです。普段目にしていない水が、姿を変えて私たちにおそいかかってきます。建物を破壊し、農地を流し、時には人々の生命さえ奪っていきます。最近では特に水の

災害が増えています。

その理由として考えられているのが、「地球温暖化」です。これは、私たち人間の排出した二酸化炭素が熱を閉じこめてしまい、地球の気温が上昇してしまうことです。それにより、地球環境のバランスが崩れ、水害などが起こりやすくなってしまいます。

私たちは、水の恩恵を受けながら生活しているにもかかわらず、水や水を取り巻く環境に対して、無頓着で無関心すぎるように思います。水の恵みをあたり前のように感じていることが危険だと思っています。四月に田んぼに流れ込む水を、いつまでも美しいままに保つことも、豊かな量に保つことも、これからの私たちの意識改革と努力にかかっています。

田んぼの水面が、今日もきらりと輝いています。そのどけげな、生き物の姿が見えます。小さな苗が、風を受けて気持ちよさそうです。この水に感謝しながら生きてゆく私でありたいと思います。

▼平成19年度「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査・優秀賞

「川と公園の意外な関係」



はねだ みほ
羽田 美帆
(下館南中3年)

「近所にある公園が、大雨時には貯水池となつて私たちの身を守ってくれているということを母から聞き、作文にしました。水を大切にし、水と上手に付き合っていけたらいいと思います。」

「鮭のそ上る川」



ひだの あつし
飛田野 篤
(下館中2年)

「水をきれいに保ち、鮭の遡上する勤行川をこれからも大切にしていきたいという思いを表現しました。時間をかけて仕上げた作文なので、優秀賞に選ばれてとてもうれしいです。」

▼全国小学生体重別柔道大会
女子5年40キロ級 ベスト16



飯田 久留実
(大田小5年)

「全国大会は緊張したけれど、予選リーグで2勝し、決勝に進むことができたので、自信ができました。来年こそは優勝できるように頑張ります」

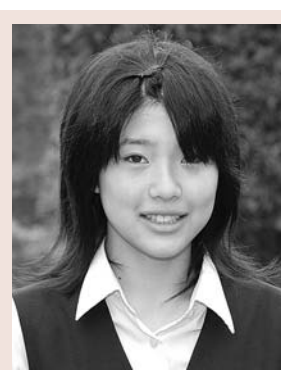
▼全国小学生ABCバドミントン大会
男子シングルス 第3位



稲光 勇太 (大村小6年)

「全国大会では、一戦一戦、挑戦者の気持ちで一生涯頑張りました。その結果が3位で、とてもうれしかったです。この結果に満足せず、また一から挑戦するつもりで頑張りたいです」

▼第10回JOCジュニアオリンピック・カップ大会（フリースタイルミニング）
女子ユースB（中学の部）優勝



平井 悠希
(下館中2年)

「今年はいっぱい練習したので、その成果が出て良かったんです。来年も連覇できるように、一つ一つの課題に取り組んでいきたいと思っています」

▼全国高校総体（インターハイ）
水泳女子百メートル自由形 第2位



谷家 悠海 (下館一高2年)

「後半で勝負をかけ、力を出し切りました。去年インターハイに出場した時は予選落ちだったので、今年は2位になり、自己ベストも出せたので良かったです。来年も頑張ります」

▼全国中学校大会出場

●男子剣道



田村 雅人
(下館西中3年)

「3年間頑張ってきたので、全国に行けてうれしかったです。高校でも剣道を続け、インターハイを目指します」

●共通女子砲丸投げ



宮本 早貴
(下館西中3年)

「総体も全国入賞をねらっていましたが果たせず、とても残念でした。秋のJOCではメダルを取りたいと思います」

●男子柔道81キロ級



市岡 毅成
(関城中3年)

「全国大会では上には上がいるんだと痛感しました。もっと努力して、次はインターハイに出られるよう頑張ります」

▼第2回全国高校生短歌大会
（短歌甲子園） 準優勝

●団体戦決勝での作品 題詠「風」

「雨よりも台風よりも恐ろしい

成績表と母の雷」

倅田彩乃

「光る風背中を押してくれるから

一段とばして君に会いたい」 北嶋訓子

「そよ風が君の笑顔を呼び込んで

ゆつくり歩く春の下校路」 柳田恵理



倅田 彩乃 (下館一高3年) 北嶋 訓子 (下館一高定時制4年) 柳田 恵理 (下館一高定時制4年)

「まさか決勝まで行くとは思っていませんでした。とてもうれしいです。普段からアイデアをノートに書きためておいたのが大会で役に立ち、今回の準優勝につながったのだと思います。高校生最後の大会で、良い結果を残すことができ、いい思い出になりました」

市内最高齢者は鶴見まちさん

富山市長が高齢者宅を訪問

9月4日、敬老の日を前に、富山市長が在宅で暮らす100歳到達者と最高齢者宅を訪問。褒状や記念品を贈り、長寿を祝いました。

市内の最高齢者は104歳の鶴見まちさん（東稷生）。鶴見さんは明治36年の生まれ、現在はベッドの上での生活になっていますが、4世代7人の家族に囲まれ楽しく暮らしています。「元気で長生きしてくださいね。来年もまた来ますよ」という富山市長の呼びかけに笑顔も。

8月1日現在、市内の88歳到達者は338人、100歳以上は40人です。これからますます元気で長生きしてください。



本物の親子は何番と何番？

高校生クイズに中小学校の児童が出演

日本テレビの人気番組「全国高等学校クイズ選手権」の収録が8月14日に市内で行われました。

この番組は全国の現役高校生が知力と体力とチームワークを競い合うもの。はじめに、下館駅前で真岡北陵高校吹奏楽部の歓迎式典があり、その後、真岡鐵道のSLへ乗り込みクイズの旅が始まりました。

折本駅では、中小学校の児童5人とお母さんたちが高校生を待ちかまえていました。「本物の親子は何番と何番？」思いがけない珍問に頭を抱える高校生たち。人気番組に出演できた中小学校のみなさんは夏休みのいい思い出になりました。

咲き誇る120万本のひまわり

あけのひまわりフェスティバル

筑西市の夏の風物詩「あけのひまわりフェスティバル」が宮山ふるさとふれあい公園に隣接する、あけのひまわりの里で8月25日から9月2日まで開催されました。

真夏の太陽をいっぱい浴び、元気に成長した、120万本の八重ひまわりと、色とりどりの世界のひまわりが約7万人のお客さんを出迎えました。土浦市からはじめて見に来たという女性は「広さに驚きです。筑波山と黄色のひまわりが絵になりますね」とカメラを構えていました。

期間中、会場には多くの笑顔があふれ、「また来年も来ようね」という親子の声が聞こえていました。





関城吹奏楽団が金賞 第47回茨城県吹奏楽コンクール

水戸市の県民文化センターで8月5日から開催されていた、第47回県吹奏楽コンクールで関城吹奏楽団（秋山祐也団長）が一般の部で金賞を受賞、また各部門で最も優秀だった団体に贈られる朝日賞もあわせて受賞しました。

関城吹奏楽団は関城中学校の吹奏楽部で活躍した卒業生たちが中心となつて平成7年に結成。これまでも数多くのコンクールで優秀な成績をおさめてきました。

団長の秋山さんは「目標は全国大会出場。より芸術性の高い演奏をめざし、日々練習に励んでいます。また、年末年始には演奏会も開催しますので、ぜひご来場ください」と練習の手を休めて話してくれました。

上) 第47回茨城県吹奏楽コンクールで金賞に輝いた関城吹奏楽団のみなさん 下) コンクールには吹奏楽曲「鳳凰の舞」でのぞみました。

はつらつとさわやかな汗 アマチュアスポーツダンス協会が20周年

筑西市アマチュアスポーツダンス協会（杉山孝一会長）では発足20周年を迎え、7月29日に市内のホテルで記念祝賀会を開催しました。

式典では関四郎体育協会会長らがあいさつし、20周年を祝いました。式典にあわせて開催されたダンス発表には、日ごろ練習を重ねてきた38組のペアが、華麗にそしてはつらつとダンスを披露しました。

会長の杉山さんは「スポーツダンスにもっと多くの人に参加してもらい、生涯学習としての位置づけを強化していきたい。」と話してくれました。市民のみなさんも一緒に気持ちのいい汗を流しませんか。

